

お釈迦様の掌の上で



「居心地のよい世界の12の図書館」に選ばれたKiCROSS

えがしら みのる
江頭 実

きくち 菊池市長(熊本県)

海外での多様な体験

菊池市は九州の中ほど、阿蘇外輪山の西側に開けた盆地です。人口4万8000人。阿蘇山の恵みを受けて、名水・名湯などの日本百選が六つもある自然豊かな土地柄。九州でも有数の農業地域です。また、南北朝に活躍した菊池一族の本拠地で、一時期征西府が置かれた歴史のまちでもあります。

そんな故郷の市長となって、ただ今3期11年目ですが、それ以前は海外勤務が中心の金融マンで政治も行政も全くの素人。また、40年ぶりの里帰りでもありました。そんな場違いな歩みを最初にお話しします。

大学入学と同時に故郷を離れ、富士銀行(現みずほ)に入行。ドイツに留学した後、ドイツ・ニューヨーク・ロンドン、いったん帰国を挟んでスイス・ロンドンと海外勤務を重ねました。ちなみに、9・11で崩壊したあのワールドトレードセンターの90階が私のかつてのオフィス。多くの同僚・友人を失いました。

80〜90年代は徹夜が日常茶飯事の猛烈サラリーマン時代。仕事も

余暇も全力投球の充実した毎日でした。一番の苦労は現地スタッフとのコミュニケーション。問題は言葉よりも思考方法の違いです。納得するまで説明を求めて、感情をぶつけてきます。

生活面では家族の苦勞も多いですが、海外駐在の醍醐味はさまざまな異文化に触れること。特に欧州は実に多様な社会で、それが文化の深みと社会のエネルギーを生むことを実感しました。海外駐在で最も心に残るのは、スイス時代にマッターホルンの頂上に登ったこと。スイス時代は唯一の単身赴任地で時間はたっぷり。監督者(奥さま)も不在です。「今しかできない挑戦を」と46歳の年頭に思い立ち、禁煙とトレイニングを断行。8カ月後に頂上に立った時の感激は言葉には表せません。あの登頂以来、ものごとの見方が変わりました。「自然を征服」したつもりが、しょせんお釈迦様の掌の上の孫悟空。自然の偉大さ・奥深さを知るばかり。この体験は今の私の考えや政策にも大きな影響を与えています。



マッターホルン北壁と頂上

偶然と勘違いが生んだ市長選

さて、銀行を退職後、ある偶然の重なりを契機に、「故郷の市長になる」という私の人生設計になかった新たな山登りが始まります。きっかけは大学の後輩との40年ぶりの邂逅です。彼の依頼で本市のまちおこしを興味半分で行ったうちに、二つの発見に驚きました。一つは廃れ行く故郷の姿。数十年ぶりに瘦身の老いた母に会うような切なさでした。もう一つは、自分の故郷はこんなに美しかったのかという感激。スイスアルプスを知る目から見ても、山中に眠る珠玉に思えました。さらに故郷の歴史文化



菊池白龍が東京ドームで大演舞



熊本地震による災害対策本部設置



ギネス記録!菊池高校生考案の流しソーメン



地域のお祭り 黒一点

や自然を調べるほどに、足元に宝物が山のように眠っています。ビジネスの視点からは次々とアイデアが湧いてきますが、福祉や環境問題・教育といった必ずしも収益とは直結しない重要な課題も分かっています。これを統合的にプロデュースするのは市長しかありません。当時は還暦を間近に控え「残りの人生を有意義に社会に役立てたい」と考え始めたところで、故郷への恩返しにつながるならまさに有終の美。とはいえ、政治家は嫌いだし、生活ベースが菊池にありません。そんな折に、故郷とつながっていく偶然の出来事がいくつも重なります。超楽観的な私は「これらは全て神様のお導き。背中を押されている」と身勝手な勘違いと思い込みで、帰郷と出馬を決心した次第です。

経験こそアイデアの抽^{ひきたし}

私の政策はビジネス目線が多いと思います。最初に手掛けたのは農業。農産物の減農薬などを可視化した「菊池基準」と、市営のネットショップ「菊池丸ごと市場」。また

「菊池米コンクール」を創設、優勝米は大手百貨店が高値で購入します。観光面では、J.Rも高速道路もないのに注力しました。自然を生かした「命の洗濯場」を目指して『癒しの里きくち』を標榜し、年代や好みに応じ「花と緑の里」「食の里」「スポーツの里」「歴史文化の里」の四つの入り口を設けています。これはドイツのニールンドと、おとぎの国などの四つの王国の関係になぞらえたものです。また、福岡県内の自治体と連携し「南北朝・菊池一族歴史街道」を共同運営していきます。これで生まれる関係人口に加え、全国の菊池（菊地）さんを迎い込むために「菊池ファンクラブ」も組成しています。



世代を越えて引き継ぐ「日本一の桜」プロジェクト



菊池ふれあいレガッタ大会に参加する筆者（中央）

海外銀行員から市長への転身は、今振り返れば全てがつながっていました。当時のさまざまな経験がアイデアの抽斗となり、まるで今日のための勉強・準備期間であったような気もするほどです。今一番注力しているのは、人財作り。教えるのではなく、海外も含めた多様な経験の場を与えることが、おのずと成長につながると思っています。来年70歳を迎えますが、30年来続けている筋トレのおかげで気持ちは青年（自称ですが）。生きていこううちにエベレストに挑戦したい。これがネクストステージの目標です。